

学部の講義で、「現代経済論」と「日本経済論」を担当しています。これまでの研究テーマは、ドイツ社会経済史と現代日本経済論です。主な研究業績は、『金融資本と社会化』（有斐閣、1984年）、『現代国家と市民社会：21世紀の公共性を求めて』（共編著、ミネルヴァ書房、2005年）、『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』（晃洋書房、2006年）など。

趣味は、音楽と旅行。

1. ゼミの課題と内容

バブル経済の崩壊以後、長期の経済停滞におちいついた日本経済にも、2002年以後ゆるやかな景気回復がみられた。もっとも、その回復は、中国経済などの発展に牽引されたところも大きい。事実、2008年秋からのサブプライムローンの破綻やリーマン・ショックに端を発したグローバルな金融・経済危機の中で、日本経済は再び厳しい状況に置かれている。

私も日本経済の本格的景気回復をもちろん願っているが、それが容易なものでないことは明瞭である。1000兆円にも達する国と地方の累積債務、近い将来必至の増税と社会保険料負担の増大、少子高齢化の進展、BRICsをはじめとする開発途上国との不可避的な競争、原油など一次産品価格の上昇傾向、など内外の諸条件を考慮すればそう考えるのが普通であり当然である。

私達の前には、厳しい国際環境のなかで、積み上げてきた国内財政の累積債務を着実に返済し、官民の不良債権を償却し、年金・医療・介護などの諸制度を再建するという、大きな諸課題が控えているのであり、こうしたことを念頭に置きながら日本経済の展開過程について考えていきたい。

2. ゼミの進め方

ゼミのテーマは「現代日本経済分析：世界経済のなかで」となっており、日本経済分析が中心であるが、個人的な学習テーマとして外国経済研究（たとえば、アメリカ経済、ドイツ経済、ヨーロッパ経済、中国経済、東アジア経済、など）を希望する君も受講可能であり、また歓迎したい。

ゼミ参加者は、できるだけ早く——できれば3回生中頃までに——自分の専門的研究テーマを設定しうよう、充実した読書をするよう心がけられたい。そのために必要な文献や資料を私の研究室で利用・貸出することはもちろん可能である。

3. テキスト・参考書など

さしあたり、次のものを挙げておきます。

奥村宏『最新版・法人資本主義の構造』岩波現代文庫、2005年

橋本俊詔『格差社会』岩波新書、2006年

K. v. ウォルフレン『日本・権力構造の謎』ハヤカワ文庫、1994年

長谷川徳之輔『土地改革の視点』東洋経済新報社、1990年

北沢栄『亡国予算：闇に消えた特別会計』実業之日本社、2009年